

徳島県三好市の豪雨災害発生箇所のドローンによる被害状況調査を行いました

平成30年 7月 9日
徳島森林管理署

6月28日から7月8日にかけて降り続いた大雨は、徳島県内で道路の決壊や山腹崩壊など大きな被害をもたらした。

今回の豪雨で県内では、三好市で観測史上最大の雨量を記録したほか、三好市東祖谷京上(ひがしいやきょうじょう)で、総降雨量1,036.5mm、那賀町木頭出原(きとういずはら)でも1,347mmに達するなど、7月の月間平均雨量の3倍を超えました。

このような中、徳島森林管理署では、三好市山城町白川(やましろちょうしろかわ)地区で大規模な地すべりが発生したことを踏まえ、平成29年3月に三好市長との間で締結した「林野災害時等における無人航空機等を活用した活動支援の運用に関する協定」に基づき、あらかじめ職員2名を待機させました。

7月9日、三好市及び徳島県森林整備課からの要請を受け、三好市山城町白川地区の地すべり発生箇所において無人航空機(ドローン)の空撮による被災状況(位置、規模等)を把握するとともに、空撮により得られたデータ、分析結果を三好市及び徳島県に提供し、早速、空撮データは、三好市、徳島県との合同(H30.7.9 16時～)の対策会議で活用されました。

このように、徳島森林管理署では民有林において甚大な災害を受けた場合、徳島森林管理署が所有する無人航空機(ドローン)を活用し、民有林被害発生時における初動支援に積極的に取り組んでいきます。



徳島署職員が操作(空撮)



三好市山城町白川地区の被災地



ドローン